

平成 28 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨、調査の実施及び処理、調査結果の概要、分析結果の概要
- (2) 統計資料（設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい、問題文、小問別正答率、誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析 コミュニケーション能力

研 究 会 委 員

愛知県立名古屋西高等学校教諭	遠藤 啓 史
愛知県立鳴海高等学校教諭	梅 村 守
愛知県立春日井西高等学校教諭	口ノ町由美子
愛知県立東郷高等学校教諭	内 山 真 一
愛知県立一宮北高等学校教諭	得 永 優 子
愛知県立岩津高等学校教諭	荻 窪 雄 太
愛知県立幸田高等学校教諭	木 藤 邦 雄
愛知県立安城南高等学校教諭	下 條 貴 司
愛知県総合教育センター研究指導主事	広瀬 八 重 子（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	59

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和29年度以来継続して実施し、平成28年度で63回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- (1) 中学校と高等学校の連携資料
- (2) 高等学校第1学年における指導上の参考資料

2 調査の実施及び処理

調査は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題及び報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの教育研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施時期

平成28年3月下旬から4月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成28年度		平成27年度		平成26年度		平成25年度	
	学科数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全日制	普通科	104	27,744	104	28,108	105	28,214	105	28,121
	総合学科	6	1,477	6	1,478	5	1,237	6	1,476
	商業科系	7	786	7	783	7	783	6	517
	家庭科系	12	715	12	695	14	745	13	688
	英語科系	4	158	4	167	4	172	3	159
	他の学科	13	710	13	791	12	825	12	798
	定時制	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	146	31,590	146	32,022	147	31,976	145	31,759

(注1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(注3) 「英語科系」は、国際教養科及び英語留学コースである。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を、学習内容ごとに調査するものである。問題作成に当たっては、次の点に留意した。

ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。

イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。

ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 統計上の調査事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の10%を抽出）

エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

【表1】は、調査対象 31,590 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

【表1】

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	2,085	4,845	5,632	4,761	3,996	3,594	3,095	2,507	993	82	31,590	59.9
%	6.6	15.3	17.8	15.1	12.6	11.4	9.8	7.9	3.1	0.3	標準偏差	21.9
普通科	2,030	4,708	5,297	4,262	3,350	2,901	2,372	1,938	820	66	27,744	61.7
%	7.3	17.0	19.1	15.4	12.1	10.5	8.5	7.0	3.0	0.2	標準偏差	21.7
総合学科	2	42	158	239	271	291	279	167	28	0	1,477	49.3
%	0.1	2.8	10.7	16.2	18.3	19.7	18.9	11.3	1.9	0.0	標準偏差	16.9
商業科系	1	15	67	107	158	162	158	88	29	1	786	47.2
%	0.1	1.9	8.5	13.6	20.1	20.6	20.1	11.2	3.7	0.1	標準偏差	16.7
家庭科系	2	9	33	70	113	134	149	146	51	8	715	41.3
%	0.3	1.3	4.6	9.8	15.8	18.7	20.8	20.4	7.1	1.1	標準偏差	17.3
英語科系	44	49	29	19	9	5	2	1	0	0	158	79.1
%	27.8	31.0	18.4	12.0	5.7	3.2	1.3	0.6	0.0	0.0	標準偏差	14.9
他の学科	6	22	48	64	95	101	135	167	65	7	710	41.6
%	0.8	3.1	6.8	9.0	13.4	14.2	19.0	23.5	9.2	1.0	標準偏差	19.6

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 28 年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音・文強勢問題 正答率 64.3% 【2】語彙問題 正答率 35.5%）

ア 短い英文中の語の発音で、[z], [ð], [θ] などの紛らわしい音の区別ができない。また、発話や応答において、強勢を置いて伝えるべき情報（対比的な表現等）を意識できない。

イ 【2】語彙問題は、全大問の中で最も正答率が低く、文脈や対話の内容に応じて、適切な語彙（nurse, abroad, spend, against など）を用いることができない。正答である語のつづりの誤りではなく、別の語を解答する誤答や無答が多いという傾向が見られた。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 56.0% 【4】文法・表現問題 正答率 59.8%）

ア 文の前後関係に応じて接続詞を適切に用いることができない。

イ 分詞の後置修飾を用いて適切に表現することができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 65.7%）

基本的な会話表現は定着しているが、状況や人物の心情を踏まえて表現することができない。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 66.3%）

【6】整序・作文問題は、全大問の中で最も正答率が高く、対話の内容に応じて、与えられた語を用いて表現することは、比較的よくできている。特に、make + 人 + 形容詞や、現在完了（経験）の表現はよく定着しているが、want + 人 + to 不定詞を用いた表現に誤りが多い。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 63.3%）

物語中の情報を断片的に捉えてしまい、状況や人物の行動などを整理しながら、話の展開や全体像を正確に理解することができない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 60.4%）

聞き取った内容から必要な情報を整理して正確に理解することができない。

5 統計資料

(1) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

〔表 2〕は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。本年度より、設問【6】整序・作文を全て会話形式で出題することとした。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、本年度は過年度と比較して、設問【6】整序・作文の正答率がやや高く、【2】語彙の正答率が低いことが分かる。

設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較)

〔表 2〕

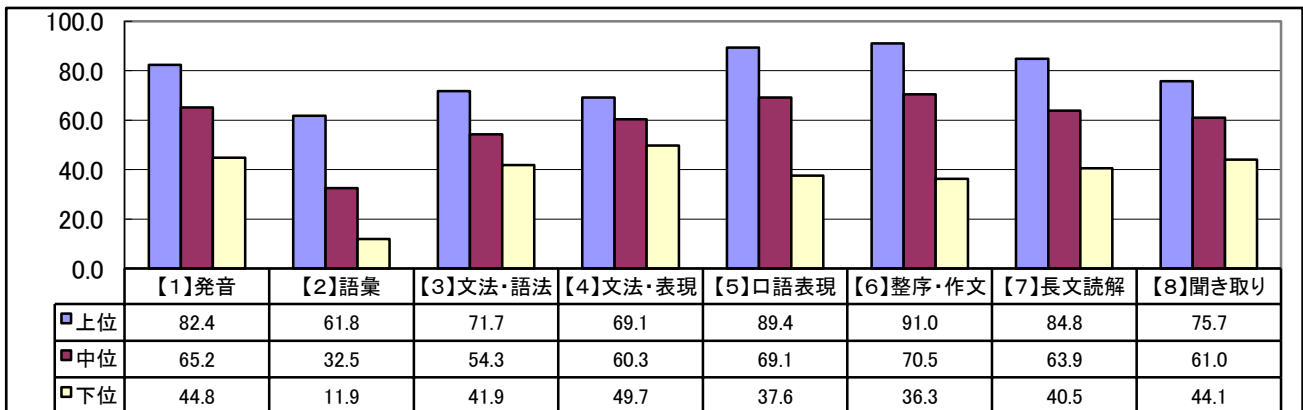
年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
抽出人数	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265	3,252	3,207
全設問	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2	65.5	59.9
【1】発音	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9	59.8	64.3
【2】語彙	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9	49.6	35.5
【3】文法・語法	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7	63.9	56.0
【4】文法・表現	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9	71.4	59.8
【5】口語表現	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8	83.9	65.7
【6】整序・作文	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2	60.9	66.3
【7】長文読解	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2	60.5	63.3
【8】聞き取り	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1	75.5	60.4

(2) 平成 28 年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

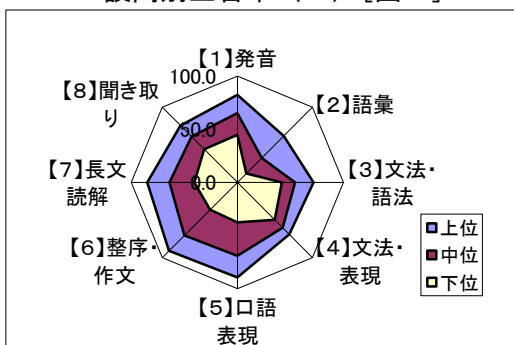
〔図 1〕は、全調査校 146 校 (学科・コース) から抽出した 3,207 名中の学校平均点上位 31 校 (偏差値 55 以上) に所属する 1,039 名 (上位層)、学校平均点中位 48 校 (偏差値 45 以上 55 未満) に所属する 1,152 名 (中位層) 及び学校平均点下位 67 校 (偏差値 45 未満) に所属する 1,016 名 (下位層) の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率 (%) (上位・中位・下位層の比較)

〔図 1〕



設問別正答率 (%) [図 2]



〔図 2〕は〔図 1〕をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙、【5】口語表現、【6】整序・作文で各層の差が大きい。一方、設問【3】文法・語法、【4】文法・表現、【8】聞き取りでは、各層の差が小さくなっている。上位層と中位層は、【5】口語表現、【6】整序・作文の正答率が高いのに対し、下位層は、【1】発音、【4】文法・表現、【8】聞き取りの正答率が比較的高い傾向にある。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別及び文における強勢の知識を測る。

【1】 次の(1)～(3)の下線部と発音が同じものを英文中の下線部ア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。また、(4)、(5)の会話において、下線部ア～エのうち最も強く読まれるもの一つずつを選び、記号で答えなさい。

- (1) mind (2) rain (3) visit

Jack is eight years old. He likes animals very much and his father takes him to the zoo every week. Jack always sits in front of elephants all day.
 One day, Jack's teacher asked the class, "What do you want to be in the future?" Jack thought for a while and answered, "I want to be an elephant. I don't have to work at the zoo."

- (4) A: How do you come to school?
 B: I usually come by bike.
 (5) A: I hear you are from ABC city. Is that near Tokyo?
 B: No. It is far from Tokyo.

配点 10点 (各2点)

正解 (1) ケ (2) ア (3) エ (4) エ (5) イ

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全体 3,207	普通科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) <u>while</u>	64.3	70.5	72.4	52.0	60.0	47.3	66.7
(2) <u>eight</u>		75.6	76.5	63.5	85.0	59.5	65.3
(3) <u>zoo</u>		47.1	48.9	37.8	28.8	25.7	30.6
(4) <u>bike</u>		67.3	69.0	54.7	57.5	48.6	54.2
(5) <u>far</u>		61.0	63.4	43.9	47.5	28.4	44.4

本年度は、小問(1)、(2)、(3)を発音に関する問題、(4)、(5)を文における強勢に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、「調査校全体の正答率」という)は64.3%であった。

平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(以下、「分析答案」という)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<過年度類題正答率(%)>

小問(発音)	28年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) <u>mind</u> [ai]	70.5	79.0 (23年度) <u>smile</u> , 85.3 (19年度) <u>decide</u>
(2) <u>rain</u> [ei]	75.6	76.6 (27年度) <u>cake</u> , 34.6 (26年度) <u>change</u>
(3) <u>visit</u> [z]	47.1	32.2 (22年度) <u>size</u> , 25.8 (14年度) <u>news</u>

<分析答案による誤答数>

小問(発音)	誤答数	ア [ei]	イ [æ]	ウ [ɔ]	エ [z]	オ [i]	カ [i:]	キ [s]	ク [θ]	ケ [ai]	コ [s]	無答
(1) <u>mind</u> [ai]	19	3	10	0	0	4	0	0	1	正答	0	1
(2) <u>rain</u> [ei]	15	正答	8	0	0	0	7	0	0	0	0	0
(3) <u>visit</u> [z]	55	0	0	13	正答	18	0	7	12	2	2	1

小問(文における強勢)	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(4) 疑問詞の内容	27	5	3	19	正答	0
(5) 対比される情報	36	11	正答	2	22	1

<考察>

小問(1)は, [ai] の発音を問う問題で, 調査校全体の正答率は70.5%とよくできていた。誤答19例のうち **イ** animal が10例あり, 二重母音と短母音の区別は十分とは言えない。

小問(2)は, [ei] の発音を問う問題で, 調査校全体の正答率は75.6%と本問中最も高かった。見出し語 **rain** と, **ア** eight の下線部の発音 [ei] はよく理解されている。

小問(3)は, [z] の発音を問う問題で, 調査校全体の正答率は47.1%と本問中最も低かった。誤答55例のうち, **ウ** father が13例, **ク** thought が12例あり, 見出し語 visit の下線部の発音 [z] と [ð] や [θ] の違いは十分に理解されていないと考えられる。また, **オ** sits が18例あり, これは見出し語 visit の母音に影響を受けたためと思われる。

小問(4)は, 「どのようにして登校するのか」という問いかけに対して, 「自転車で登校する」と答える際に, どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は67.3%であった。誤答27例のうち19例が **ウ** by であり, 交通手段の **エ** bike とともに副詞句を構成する前置詞に注目してしまったためと思われる。

小問(5)は, 「あなたの出身地は東京から近いか」という問いかけに対して, 「東京からは遠い」と答える際に, どの語に強勢を置くかを問う問題である。調査校全体の正答率は61.0%であった。誤答36例のうち22例が **エ** Tokyo であり, near の対比である **イ** far に着目できなかったためと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

- ① 小問(3)に見られるように, [z] と [ð] や [θ] の発音が区別できない。
- ② 小問(5)に見られるように, 発話や応答において, 強勢を置いて伝えるべき情報を意識できていない。

<具体的な指導例>

注意させたい発音を発音記号を示して何回か練習させた後, 次のようなスキットを示し, 発音や強勢を置くべき語句に注意させながらペアで練習をさせる。

【スキットの例】 (下線部は正確な発音を身に付けさせたい箇所, 太字は強勢を置くべき語句)

A: How many times have you visited Tokyo Disney Land?

B: I have visited there **three** times. I think I'll visit on my birthday next year.

A: When is your birthday?

B: I was born on **February 29th**. My parents give me birthday presents every four years.

A: **Then**, how old are you?

B: I was born sixteen years ago, but I should say I am **four** years old. My parents celebrated my **fourth** birthday last year.

(2) 語彙問題

出題のねらい：基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)~(10)の文中の()内に、与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) My father is in the (k). He is cooking dinner now.
- (2) Yumi is a (n). She works in the hospital and takes care of sick people.
- (3) My (f) baseball team is the Dragons. I saw all the games last year.
- (4) I like reading books but my brother likes playing sports. Our opinions are always (d) from each other.
- (5) I want to work as a Japanese teacher in foreign countries someday. So I hope to study (a) when I am a college student.
- (6) A : How did you (s) the weekend?
B : I went to Tokyo Disney Land with my friends. It was great!
- (7) A : What did you think of Japan? Did you like it?
B : Yes. I'll never (f) this trip.
- (8) A : Hello? Is this Mr. White?
B : I'm sorry, I think you have the (w) number.
- (9) A : What is the building next to the post office?
B : It is the (l). You can borrow five books at one time.
- (10) A : Some people think we should use printed dictionaries. Do you agree with them?
B : No. I'm (a) their idea.

配点：10点(各1点)

正解 (1) kitchen (2) nurse (3) favorite (4) different (5) abroad
(6) spend (7) forget (8) wrong (9) library (10) against

<抽出答案における【2】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,207	普 通 科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1) kitchen	35.5	43.6	45.9	24.3	32.5	25.7	18.1
(2) nurse		19.1	20.6	9.5	6.3	2.7	2.8
(3) favorite		58.0	60.7	37.2	46.3	32.4	31.9
(4) different		38.5	40.7	27.0	23.8	14.9	9.7
(5) abroad		17.6	19.3	1.4	6.3	1.4	4.2
(6) spend		27.6	29.8	10.1	15.0	2.7	11.1
(7) forget		44.8	47.4	24.3	31.3	16.2	22.2
(8) wrong		31.6	34.3	8.1	12.5	6.8	6.9
(9) library		50.1	53.1	31.1	30.0	20.3	18.1
(10) against		23.8	25.5	12.8	11.3	5.4	4.2

調査校全体の正答率は35.5%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	28年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) kitchen	43.6	45.4(21年度), 48.1(13年度)
(2) nurse	19.1	20.2(23年度)
(3) favorite	58.0	67.0(26年度), 66.8(22年度)
(5) abroad	17.6	32.1(27年度), 25.5(26年度)
(6) spend	27.6	36.3(27年度)
(7) forget	44.8	50.4(27年度), 53.8(24年度)
(8) wrong	31.6	31.8(25年度), 67.4(24年度)

小問	28年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(9) library	50.1	51.1（22年度）, 49.9（18年度）
(10) against	23.8	28.5（25年度）

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り（数）	その他の誤り（数）	無答
(1) kitchen	50	40 kitchin (11), kichen (8), kichin (3), kithen (3) 等	10 kind (5), know (1), knew (1) 等	0
(2) nurse	85	68 nars (17), narce (7), narth (6), nurs (6) 等	15 nine (2), need (2), necessary (2) 等	2
(3) favorite	33	2 faborite (2)	30 father (17), friend (4), father's (3), fun (2) 等	1
(4) different	66	4 diferent (2), difarent (1) 等	57 doing (18), difference (7), dream (3), during (3) 等	5
(5) abroad	97	0	76 always (11), another (6), anything (5), animal (5) 等	21
(6) spend	73	0	66 stay (22), see (10), something (7), stayed (4) 等	7
(7) forget	54	0	49 find (7), favorite (5), forgot (5), from (4) 等	5
(8) wrong	79	0	60 write (8), white (5), writing (4), written (3) 等	19
(9) library	46	7 libraly (3), libulaly (1) 等	34 large (5), light (5), left (3), look (3) 等	5
(10) against	83	1 agenst (1)	73 agree (36), another (12), about (3), answer (2) 等	9

<考察>

小問(1)から(5)までは文中の適語補充問題, (6)から(10)までは対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) kitchen の調査校全体の正答率は43.6%であった。誤答50例のうち「つづりの誤り」が40例であった。文脈から kitchen という語を思いつくことはできたものの、正確につづることができなかった。

小問(2) nurse の調査校全体の正答率は19.1%と非常に低い結果となった。nars や narce などの「つづりの誤り」が68例と多く、単語を思い浮かべることができたが、正確につづることができなかった。

小問(3) favorite の調査校全体の正答率は58.0%と本問中最も高かった。「つづりの誤り」も2例と少なく、favorite という語は定着しているようである。

小問(4) different の調査校全体の正答率は38.5%と低かった。誤答66例のうち57例が「その他の誤り」であった。be different from という表現は NEW HORIZON 3 Unit 1 で紹介されているが、定着していないようである。

小問(5) abroad の調査校全体の正答率は17.6%と本問中最も低かった。誤答97例のうち「その他の誤り」が76例、「無答」が21例であった。abroad という語になじみがないことに加えて、問題文の「日本語の教師としていつか海外で働きたい」と「だから大学生のときに海外で勉強したい」という文のつながりを正しく読み取れなかったためと思われる。

小問(6) spend の調査校全体の正答率は27.6%と低かった。誤答73例のうち「その他の誤り」が

66例, そのうち22例が stay であり, stay と spend の使い方が正しく理解されていないようである。

小問(7) forget の調査校全体の正答率は44.8%であった。誤答54例のうち「その他の誤り」が49例であり, 問題文の文脈から forget という語を思い浮かべることができなかったようである。

小問(8) wrong の調査校全体の正答率は31.6%であった。誤答79例のうち「その他の誤り」が60例, 無答が19例あり, 「つづりの誤り」はなかった。 you have the wrong number という表現は定着していないようである。

小問(9) library の調査校全体の正答率は50.1%であった。誤答46例のうち「その他の誤り」が34例, 無答が5例であった。文意が理解できず, 正答を思いつけなかったようである。

小問(10) against の調査校全体の正答率は23.8%と低かった。誤答83例のうち「その他の誤り」が73例あり, 無答が9例であった。 I'm against their idea. という表現が定着していないようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4), (5), (10)に見られるように, 文脈の中で適切な語を用いることができない。

<具体的な指導例>

(1) 英単語をコロケーションで示し, 発音練習をさせる。

【コロケーションの例】

be different from A study abroad / go abroad be against the idea

(2) その後, そのコロケーションを用いたスキットを創作させ, ペアやグループで発表させる。

【スキットの例】

A: Every high school student should study abroad to learn about different cultures.

B: I'm against your idea. Not everyone is rich. We can learn about different cultures at school.

C: My ideas are different from yours. It's difficult for many students to study abroad.

But we can talk with people all over the world through the Internet.

(3) 発表を聞いている生徒に, コロケーションを用いて意見を言わせる。

【意見を聞く例】

A: Do you agree with me, D? Are you against my idea?

D: I'm against your idea. It is dangerous for us to go abroad.

(3) 文法・語法問題

出題のねらい: 機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)~(5)がそれぞれ正しい文になるように、() 内に入る最も適切な語(句)をア~エから選び、記号で答えなさい。

(1) Thank you very much for () us to the party.
ア invite イ invited ウ inviting エ you invite

(2) There () a church around here ten years ago.
ア had イ has been ウ is エ was

(3) My parents have lived in Kagawa () 10 years.
ア during イ for ウ in エ since

(4) () we did our best, we lost the game.
ア Because イ But ウ So エ Though

(5) The baby () to the hospital got better.
ア taken イ takes ウ taking エ took

配点: 10点(各2点)

正解 (1) ウ (2) エ (3) イ (4) エ (5) ア

<抽出答案における【3】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,207	普 通 科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72	
(1) inviting	56.0	65.8	67.5	55.4	53.8	50.0	76.5	50.0
(2) was		71.3	72.6	71.6	48.8	54.1	82.4	58.3
(3) for		84.5	85.7	76.4	71.3	67.6	100.0	84.7
(4) Though		25.4	26.6	18.2	10.0	6.8	70.6	15.3
(5) taken		33.2	34.5	25.7	26.3	10.8	52.9	23.6

調査校全体の正答率は56.0%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	28年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(3) 期間を表す前置詞 for の用法	84.5	83.9（16年度）
(4) 接続詞 though の用法	25.4	23.3（27年度）、23.9（26年度）
(5) 過去分詞の用法（後置修飾）	33.2	67.5（25年度）、32.9（21年度）、46.8（20年度）、31.1（19年度）、66.5（14年度）、38.9（12年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) inviting	46	6	31	正答	9	0
(2) was	34	19	10	4	正答	1
(3) for	19	1	正答	1	17	0
(4) Though	75	26	31	18	正答	0
(5) taken	78	正答	27	21	29	1

<考察>

小問(1)は、相手に感謝を伝える表現 Thank you for -ing を正しく使えるかを問う問題である。調査校全体の正答率は65.8%であった。誤答46例のうち31例はイ invited であった。これは、相手が招待してくれたのは過去の出来事であり、それに対して感謝をしているという状況から、誤って選択してしまったためと思われる。

小問(2)は、There is / are 構文を用いた存在を表す表現が定着しているかを問う問題である。調査校全体の正答率は71.3%であり、比較的よくできていた。誤答34例のうち19例がア had であった。その理由は、過去を表す表現 ten years ago から誤って判断して過去形の動詞 ア had を選択したためと思われる。

小問(3)は、現在完了形とともに用いて期間を表す for を選択させる問題である。調査校全体の正答率は84.5%と本問中最も高かった。期間を表す前置詞 for の用法については、おおむね理解されているようである。

小問(4)は、文脈に合う適切な接続詞 Though を選択させる問題である。調査校全体の正答率は25.4%と本問中最も低かった。接続詞 though は3年連続の出題であったが、低い正答率が続いている。誤答75例のうち31例はイ But で最も多かった。文の前後関係を読み取れた生徒でも、接続詞 though の意味・用法の理解が不十分であるため、誤答が多かったものと考えられる。

小問(5)は、後置修飾の過去分詞 taken を選択させる問題である。調査校全体の正答率は33.2%と低かった。誤答は分散しており、文脈から判断して過去分詞を選択することができなかった生徒が多かったものと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)に見られるように、分詞による後置修飾の表現が定着していない。

<具体的な指導例>

(1) 生徒同士をペアにして、Information Gap のある絵をそれぞれ生徒A, Bに提示する。

(2) 生徒Aは絵から情報を1つ選び、次の表現を使って生徒Bに伝える。

A: There is a (人, 物) (場所) . (He / She, It) is (様子) .

※ (様子) は分詞を用いて表現させる。

(3) 生徒Bは生徒Aの発話を聞いて、その情報を1文にまとめ、生徒Aに確認する。

B: Is there a (人, 物) (様子) (場所) ?

(4) 生徒Bは自分の持つ絵に、Aから聞いた情報を基に絵を描き足す。

(5) 役割を交代する。

【例：ブラッシングをされている犬について伝えるとき】

A: There is a dog near the door.

It is brushed by a boy.

B: Is there a dog brushed by a boy near the door?

A: Yes, there is.

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)~(5)の会話が成立するように、()内に入る最も適当な語(句)をア~エから選び、記号で答えなさい。

(1) A: This is my new bike. I'll ride it for the first time today.

B: () careful.

ア Be イ Do ウ Don't be エ Take

(2) A: Please show me () buy the concert ticket.

B: Go this way. You can see the ticket center over there.

ア what to イ when to ウ where to エ which to

(3) A: () I use my dictionary?

B: No, you mustn't. You have to read that book without your dictionary.

ア Did イ May ウ Must エ Will

(4) A: () do you drink coffee?

B: I usually drink it three times a day.

ア How many イ How much ウ How often エ How old

(5) A: Oh no! We have only five minutes () the bus comes.

B: OK, let's hurry.

ア at イ before ウ by エ until

配点：10点（各2点）

正解 (1) ア (2) ウ (3) イ (4) ウ (5) イ

<抽出答案における【4】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全 体 3,207	普 通 科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72	
(1) Be	59.8	93.4	93.6	93.9	96.3	82.4	100.0	90.3
(2) where to		76.2	77.9	70.3	62.5	54.1	82.4	58.3
(3) May		44.8	44.9	41.2	33.8	45.9	70.6	51.4
(4) How often		71.5	72.8	62.2	62.5	52.7	94.1	62.5
(5) before		13.1	13.1	14.2	12.5	12.2	11.8	12.5

調査校全体の正答率は59.8%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	28年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(2) 疑問詞 + to 不定詞	76.2	80.7 (27年度) Can you tell me how to get to City Hospital?
(3) May I	44.8	89.9 (25年度) May I see your passport? 75.8 (23年度) May I use your pen?
(4) How often	71.5	61.4 (23年度) How often does the bus come?

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) Be	4	正答	2	2	0	0
(2) where to	25	3	10	正答	12	0
(3) May	61	0	正答	60	1	0
(4) How often	26	14	10	正答	2	0
(5) before	86	30	正答	17	37	2

<考察>

小問(1)は、命令文の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は93.4%で、今回の調査全体で最も高かった。命令文の用法についてはよく理解できていた。

小問(2)は、疑問詞 + to 不定詞を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は76.2%であった。where + to 不定詞を用いた表現はよく定着しているようである。

小問(3)は、May I の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は44.8%であった。ウ Must が誤答として最も多かった理由は、B の応答 No, you mustn't. で must が用いられていたためと思われる。許可や禁止の文脈で用いられる may と must を適切に使い分けることができないことが分かる。

小問(4)は、疑問詞 how を用いた表現に関する問題である。調査校全体の正答率は71.5%であった。誤答26例は、会話の内容から頻度を問う表現を導くことができなかつたものと考えられる。

小問(5)は、接続詞 before の用法を問う問題である。調査校全体の正答率は13.1%で、今回の調査全体で最も低かった。誤答は分散しており、接続詞 before の用法については理解が十分ではない。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)に見られるように、接続詞の用法が理解できていない。

<具体的な指導例>

(1) 英文を読ませ、文脈から適切な接続詞を考えさせる。

I have to go () it gets dark.

We continued playing soccer () it got dark.

We couldn't see anything () it got dark.

(2) 用いられている接続詞に合わせて英文を書かせる。

I _____ before I had dinner.

I _____ after I finished my homework.

I _____ until it stops raining.

(3) ペアワークで互いに質問をさせて、それに答えさせる。

【活動の例】

A: What did you do before you had dinner?

B: I studied English.

A: What did you do after you finished your homework?

B: I watched my favorite TV program.

A: What will you do until it stops raining?

B: I will continue reading a book.

(5) 口語表現問題

出題のねらい：基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Yumi と Mike の会話です。(1)~(5)に入る最も適切な表現をア~コから選び、記号で答えなさい。ただし、各表現は一度しか使えません。

Yumi: Hi, Mike. How are you doing?

Mike: Not so good.

Yumi: Oh? (1)

Mike: I have a lot of reports to write.

Yumi: Poor Mike! (2)

Mike: Can you guess? Five.

Yumi: Oh! When do you have to finish them?

Mike: Next Monday. I have to write them in Japanese. (3)

Yumi: That's too bad. I have two tickets for a concert on Sunday.

Mike: Wow! (4)

Yumi: I wanted to go with you. But you have to finish your reports.

Mike: (5) Why don't you help me with them?

Yumi: No!

ア I have a great idea.

ウ What's the matter?

オ You're welcome.

キ How many reports do you have?

ケ Can you hear them?

イ You must finish your reports.

エ What time is it now?

カ That sounds great.

ク How many tickets do you have?

コ I won't be free this weekend.

配点：10点（各2点）

正解 (1) ウ (2) キ (3) コ (4) カ (5) ア

<抽出答案における【5】小問別正答率（％）>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,207	2,816	148	80	74	17	72
(1) What's the matter?	65.7	67.7	69.5	61.5	53.8	47.3	40.3
(2) How many reports do you have?		71.3	73.2	66.2	52.5	48.6	47.2
(3) I won't be free this weekend.		57.6	59.5	50.7	41.3	27.0	38.9
(4) That sounds great.		68.0	69.9	58.8	62.5	31.1	48.6
(5) I have a great idea.		63.8	65.4	59.5	48.8	40.5	41.7

調査校全体の正答率は65.7%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) What's the matter?	37	0	1	正答	4	0	0	17	2	11	1	1
(2) How many reports do you have?	31	2	15	2	4	0	0	正答	2	3	3	0
(3) I won't be free this weekend.	50	2	5	2	0	1	2	0	21	15	正答	2
(4) That sounds great.	24	1	1	2	1	2	正答	0	4	2	11	0
(5) I have a great idea.	42	正答	11	3	0	2	6	0	1	5	13	1

<考察>

小問(1)は、あまり元気のない Mike に Yumi がその理由を尋ねる場面である。調査校全体の正答率は67.7%であった。誤答37例のうち キ How many reports do you have? が17例あり、Mike の返答 I have a lot of reports to write. から誤って判断したものと考えられる。

小問(2)は、書かなければならないレポートの数を Yumi が Mike に尋ねる場面である。調査校全体の正答率は71.3%と本問中最も高かった。Mike の返答 Five. から数を問う表現を選択することができたようである。

小問(3)は、レポート提出の期限が迫っているため週末は暇がないと Mike が訴える場面である。調査校全体の正答率は57.6%と本問中最も低かった。誤答50例のうち ク How many tickets do you have? を選択したものが21例あり、Yumi の返答 I have two tickets for a concert on Sunday. から誤って判断したものと考えられる。Yumi が That's too bad. と返答したのは Mike が困難な状況を訴え続けたからであることを理解できなかったためと思われる。

小問(4)は、Yumi がコンサートのチケットを持っていることを聞いた Mike が感動を表す場面である。調査校全体の正答率は68.0%であった。直前の間投詞 Wow! の助けもあり、判断しやすかったようである。

小問(5)は、レポートを完成させるために助けを借りたいと Mike が Yumi に頼ろうとする場面である。調査校全体の正答率は63.8%であった。誤答は分散しており、Mike が前置きをして頼みごとをする対話の流れを捉えることができなかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

会話の定型表現は適切に使うことができるが、小問(3)、(5)のように場面の状況や登場人物の心情を踏まえて表現することができない。

<具体的な指導例>

言葉だけのやりとりに終わらないように、相手の反応を見ながら対話をする練習をさせる。

【相手が *That's too bad.* というまで大変だと訴え続けよう】

A: What's wrong?

B: I have a lot of homework. I have to finish it by tomorrow. I feel sick today.

A: That's too bad.

【I have a great idea. という発言で相手の注意を引いてからお願いをしよう】

A: Get up early, or you'll be late for school.

B: I have a great idea. Why don't you take me to school by car?

A: No!

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力、基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の会話が成立するように、(1)~(3)は [] 内の語を全部用いて英文を完成させなさい。また、(4)、(5)は () 内に3語以上の英語を入れて英文を完成させなさい。ただし、[] 内の語をこの順序で使いなさい。

(1) A: Look at the girl in this picture. [do / is / know / she / who / you]?

B: Of course. She is Miki, my classmate.

(2) A: Do you like Mariah Carey?

B: Yes. [happy / her / make / me / songs].

(3) A: Is Kevin out? I [call / him / me / to / want] back.

B: OK. I'll tell him later.

(4) A: What are you going to do this summer?

B: I'm going to New York to study English.

A: () America? [ever, to]

B: No, I haven't.

(5) A: I have a question about Japanese houses. What is *tokonoma*?

B: () explain it. If you see it, you will understand it.

Would you like to come to my house? I'll show you. [difficult, me]

A: Oh, thank you.

配点：15点（各3点 部分点なし）

正答 (1) Do you know who she is (2) Her songs make me happy

(3) want him to call me (4) Have you ever been to

(5) It is difficult for me to

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,207	普 通 科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
(1)	66.3	63.2	65.7	53.4	41.3	29.7	44.4
(2)		77.0	78.7	72.3	68.8	51.4	100.0
(3)		55.8	58.4	47.3	35.0	20.3	82.4
(4)		71.7	74.1	62.2	62.5	33.8	88.2
(5)		63.8	66.4	48.6	50.0	32.4	94.1

小問(1)から(3)までは、会話を完成させる整序問題、小問(4)、(5)は、会話が成立するように指定された語を用いて表現させる形式とした。なお、いずれの小問にも日本語は示さないこととした。調査校全体の正答率は66.3%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	28年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 間接疑問	63.2	37.5 (27年度) Do you know where my notebook is? 64.5 (25年度) I don't know why he said so. 53.0 (23年度) Do you know where she will go tomorrow? 69.2 (22年度) I don't know who he is. 59.8 (20年度) Do you know who he is?
(2) make + O + 形容詞	77.0	78.7 (23年度) The news made me very sad. 75.1 (21年度) These presents made her happy. 53.9 (19年度) The news made my father very sad.
(3) want + 人 + to 不定詞	55.8	28.9 (21年度) I want you to read this book. 35.4 (20年度) I want everyone to read this book.
(4) 現在完了(経験)	71.7	26.6 (26年度) I have never been there. (経験) 35.2 (25年度) I have been to seven countries. (経験) 35.4 (24年度) Have you ever read them? (経験) 72.8 (22年度) Have you ever been to Okinawa? (経験)
(5) 形式主語構文 It is ~ for 人 to 不定詞	63.8	65.7 (22年度) It was easy for me to answer the question. 76.3 (19年度) It is easy for me to learn English. 66.1 (15年度) It is important for you to learn history.

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	46
(2)	24
(3)	46
(4)	28
(5)	44

<考察>

小問(1)は、間接疑問を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は63.2%であった。

誤答例 ① Do you know who is she?	25例
② Who do you know is she?	6例

誤答46例のうち25例が、間接疑問の語順が平叙文と同様であることが理解されていない。また、過年度の正答率の比較から、疑問文とともに用いた時に、語順の誤りが起きやすいものと考えられる。

小問(2)は、make + O + 形容詞を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は77.0%と本問中最も高かった。make + O + 形容詞という表現は、定着しているようである。

小問(3)は、want + 人 + to 不定詞を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は55.8%と本問中最も低かった。

誤答例 ① I want to him call me back.	17例
② I want to call me him back.	6例

誤答46例のうち31例が、want to と書いており、これはなじみのあるwant to doに影響されたものと考えられる。

小問(4)は、現在完了を用いて経験を尋ねることができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は71.7%と高かった。

誤答例 ① Have you ever visited to America?	4例
② Have ever been to America?	3例

経験を尋ねる Have you ever been to ...? という表現は、比較的定着しているようである。

小問(5)は、It is ~ for 人 to 不定詞の構文を用いた表現ができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は63.8%であった。

誤答例 ① It is difficult for me explain it.	14例
② 無答	14例

誤答44例のうち14例が無答で、14例が不定詞の形 to explain it を正しく書けなかった。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(3)のように、want +人+ to 不定詞を用いた表現が定着していない。

<具体的な指導例>

(1) want +人+ to 不定詞を用いた会話例を板書等で示して、ペアやグループでその表現を使って相手にして欲しいことを伝える活動をさせる。

(2) ask +人+ to 不定詞, tell +人+ to 不定詞の表現についても活用させてみる。

【ペアの例】

A: I want you to shake hands with me.

B: OK. You want me to shake hands with you.

B: I want you to show me your notebook.

A: OK. You want me to show you my notebook.

【グループの例】

A: Naoki, I want you to tell us about your family.

B: OK. Akira wants me to tell you about my family. My father _____.

C: Risa, I want you to give me some advice about studying English.

D: OK. Maki wants me to give her some advice about studying English. First of all, _____.

E: Risa, I want you to speak louder. This room is noisy.

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】 次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

A man was driving home. His company was closed last month and he lost his job.

The snow was falling. He was driving carefully. Then he saw an old woman.

(1) She was standing by a car and looked worried. He stopped his car and said, "My name is John. What's up? Let me help you."

John looked at her car and found that it had a flat tire. John quickly changed the tire and his coat got dirty.

The old woman said, "Thank you very much. How much should I give to you?" However, (2) John didn't want to take any money from her. He said to her,

“A lot of people have helped me before, so I always want to help someone else. If you really want to do something good to me, please help someone in need.” That woman said to John, “Thank you very much. I can go now.” It was a cold day, but (3)he felt warm.

After the woman drove for a few minutes, she stopped at a small restaurant. The waitress came and gave her a towel. She said with a smile, “Your hair is wet. Use this towel.” The old woman thought, “(4)Why is she so kind to others?” She found out that the waitress was going to have a baby and need a lot of money soon. She looked very tired. Then (5)she remembered John and had a good idea.

After she finished eating, the woman gave the waitress one hundred dollars for her meal. While the waitress went to get her change, the woman went out of the restaurant. When the waitress came back, she found (6)a letter on the table. In the letter, the old woman wrote, “I felt just like you today. A kind man helped me, so I will help you. If you really want to give me the change, please help someone in need.”

That night when the waitress went to bed, she thought about the old woman. She and her husband needed money because they were going to have a baby soon. She knew her husband was worried because he lost his job last month. Her husband was sleeping next to her. (7)She looked at him and said, “Everything is going to be all right. I love you, John.”

(注) flat tire 「パンクしたタイヤ」 waitress 「ウェイトレス」 one hundred dollars 「100ドル」

問1 下線部(1)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because the snow was falling and it was cold.
- イ Because her car did not move.
- ウ Because she was waiting for John.
- エ Because she couldn't find her house.

問2 下線部(2)の理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア Because he didn't think that she had a lot of money.
- イ Because he was rich and he didn't need any money.
- ウ Because he enjoyed talking with her.
- エ Because he wanted to help someone who needed help.

問3 下線部(3)において、**he** はどのように思ったのか。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア He was glad that he could get a good coat.
- イ He was glad that the snow stopped falling.
- ウ He was happy to help someone in need.
- エ He was happy to get some money.

問4 下線部(4)において、**she** は具体的に何をしたのか。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア She smiled and gave the old woman a towel.
- イ She gave the change to the old woman.
- ウ She took no money for the meal.
- エ She brought a cup of coffee for the old woman.

問5 下線部(5)の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア The old woman decided to finish the meal quickly.
- イ The old woman decided to give the waitress some money.
- ウ The waitress decided to tell the old woman about John.
- エ The waitress decided to write a letter to the old woman.

問6 下線部(6)の中で伝えたかった内容は何か。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア “The letter is more important than money.”
- イ “I hope you’ll have a happy life with your baby.”
- ウ “I want to help you and you should help other people.”
- エ “Don’t worry. A kind man will help you, too.”

問7 下線部(7)の内容について、以下の対話文の()内に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

Student A : She said to her husband, “Everything is going to be all right. I love you, John.” What do you think about that?

Student B : Well, I think she said so because she believed that John could get a job soon.

Student C : In my opinion, she learned from the old woman that ().
If she and her husband always try to help people, someone may help them.

- ア giving towels was not helpful
- イ finding a new job was difficult
- ウ her husband was a very kind man
- エ helping other people helped her

問8 本文の内容に合うように次の英文を起こった順に並べかえた時、最も適当なものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- 1 The old woman saw a kind waitress.
- 2 John didn’t take any money from the old woman.
- 3 John helped an old woman.
- 4 The old woman left a letter for the waitress.

- ア 2 → 3 → 1 → 4
- イ 2 → 3 → 4 → 1
- ウ 3 → 2 → 1 → 4
- エ 3 → 2 → 4 → 1

問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア The old woman had a flat tire near John’s company.
- イ John was wearing his coat when he changed the tire.
- ウ The old woman asked John for his help when he stopped his car.
- エ The old woman wanted to have dinner at a restaurant, but it was closed.
- オ The old woman wanted to go home quickly, so she left her change.
- カ The waitress helped poor people and gave money to them.
- キ The waitress’s husband helped the old woman when he was driving home.

配点:20点(各2点)

正解 問1 イ 問2 エ 問3 ウ 問4 ア 問5 イ
問6 ウ 問7 エ 問8 ウ 問9 イ, キ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問		全 体 3, 207	普 通 科 2, 816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72
問 1	63. 3	66. 4	68. 9	54. 1	41. 3	39. 2	94. 1	41. 7
問 2		80. 0	81. 6	68. 9	71. 3	58. 1	100. 0	65. 3
問 3		77. 9	79. 5	73. 0	73. 8	50. 0	100. 0	51. 4
問 4		71. 7	74. 3	55. 4	56. 3	40. 5	94. 1	50. 0
問 5		59. 0	60. 9	45. 3	51. 3	36. 5	70. 6	41. 7
問 6		57. 4	58. 8	43. 2	47. 5	41. 9	94. 1	50. 0
問 7		60. 4	62. 0	49. 3	57. 5	45. 9	100. 0	27. 8
問 8		69. 1	70. 6	62. 8	61. 3	44. 6	94. 1	54. 2
問 9	イ	42. 9	44. 8	30. 4	22. 5	17. 6	82. 4	36. 1
	キ	47. 9	50. 2	31. 8	21. 3	31. 1	76. 5	30. 6

調査校全体の正答率は 63. 3%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	40	24	正答	8	7				1
問 2	20	10	7	1	正答				2
問 3	21	11	5	正答	3				2
問 4	29	正答	10	10	5				4
問 5	48	6	正答	17	23				2
問 6	45	8	21	正答	12				4
問 7	30	5	8	12	正答				5
問 8	27	9	3	正答	9				6
問 9	125	13	正答	20	9	30	27	正答	26

<考察>

問 1 は、女性が心配そうに車の横に立っている理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 66. 4%であった。誤答 40 例のうち、**ア** Because the snow was falling and it was cold. が 24 例と半数以上を占めていた。これは、直前の The snow was falling. と関連付けたためと思われる。

問 2 は、John が助けた女性からお金を受け取らなかった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 80. 0%と本問中最も高かった。John の行動の理由をよく捉えていたと言える。

問 3 は、女性を助けた後で、John がどのように感じていたかを問う問題である。調査校全体の正答率は 77. 9%と高かった。前問に引き続き、文意をよく理解できていた。

問 4 は、レストランのウェイトレスが女性に何をしてくれたかを問う問題である。調査校全体の正答率は 71. 7%と高かった。ウェイトレスの行動が直前にあるため、解釈しやすかったようである。

問 5 は、she が登場する二人の女性のどちらを指しているか、また a good idea の内容が何かを問う問題である。調査校全体の正答率は 59. 0%であった。誤答 48 例のうち、**エ** The waitress decided to write a letter to the old woman. が 23 例、**ウ** The waitress decided to tell the old woman about John. が 17 例であり、この両方で誤答のほとんどを占めていた。これは、直前の She looked very tired. がウェイトレスを指していることから、直後の she も同じ人物を指すと解釈したためと思われる。

問 6 は、女性が残した手紙でウェイトレスに何を伝えたかったかを問う問題である。調査校全体の

正答率は57.4%であった。誤答45例のうち、イ “I hope you’ll have a happy life with your baby.” が21例あり、約半数を占めていた。手紙の内容に当たる、In the letter, the old woman wrote.... の部分を読み取ることができなかつたようである。

問7は、本文の最後にウェイトレスが話した言葉の意図を推測する問題である。調査校全体の正答率は60.4%であった。誤答30例のうち、ウ her husband was a very kind man を選んだ誤答が12例を占めていた。本文からウェイトレスの夫がその女性を助けた親切な男性だったという事実を読み取れた生徒が、ウェイトレス自身もその事実に気付いたと誤って解釈したためと思われる。

問8は、本文中に書かれている出来事の起こった順序を問う問題である。調査校全体の正答率は69.1%であった。誤答27例のうち、John が女性を助けたことと、John が助けた女性からお金を受け取らなかったことの順序を正しく捉えられなかつた解答が12例であった。登場人物の行動を整理しながら話の展開を正しく読み取ることができなかつたようである。

問9は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、イ が42.9%と本問中最も低く、キ も47.9%と低かつた。誤答は分散しており、また無答も26例と多かつた。「John がコートを着ていた」という事実や、「ウェイトレスの夫は家に帰る途中で女性を助けていた」という物語の核心部分を正しく捉えることができなかつたようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

問5, 6, 9に見られるように、情報を断片的に捉えてしまい、場面の状況や登場人物の行動などを整理しながら、事実や登場人物の心情を正確に捉えることができない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後で、内容を要約したワークシートの空欄部分を埋めさせ、またその内容を利用してペアでQ&Aを行わせることで、場面の状況や登場人物の行動などを整理して、理解を一層深めさせる。

【内容要約のワークシート例】

【SCENE 1】	
An old woman	(1) was standing by a ().
	(2) looked ().
	(3) 's car had a ()().
A man	(1) lost his ().
	(2) saw an old woman when he drove home.
	(3) 's name was ().
	(4) () the flat tire.
	(5) 's () got dirty.
	(6) didn't take ()() from the old woman.
	(7) A lot of people had () him, so he always wanted to () someone.
【SCENE 2】	
The waitress	(1) gave the old woman a ().
	(2) was going to have a ().
	(3) looked ()().
An old woman	(1) gave ()() dollars and went out of the restaurant.
	(2) left a () to the waitress.
	(3) 's letter said, "A kind man () me, so I will () you."
【SCENE 3】	
The waitress's husband	(1) 's name was ().
	(2) helped ()()() when he was driving home.

【ワークシートを使った Q&A の例】

- A: What was an old woman standing by? B: She was standing by a car.
A: How did she look? B: She looked worried.
A: What did her car have? B: It had a flat tire.
A: What did a man lose? B: He lost his job.

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生または放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×をつけなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Emily: Good morning, Ken. What are you doing?

Ken: Good morning, Emily. I'm writing my speech in English.

Emily: Oh, is that your homework?

Ken: Yes. I'm writing about helping old people.

Emily: That sounds interesting. Why are you writing about that?

Ken: I visited my grandmother last week. She lives alone. Many old people live alone in our city, so they need help. I think I should do something to help them.

Emily: That's great. Do you have any ideas to help them?

Ken: Yes, I do. I'm going to do volunteer work.

Emily: That's good. What are you going to do?

Ken: We are going to make lunch for them.

Emily: That's wonderful! Can I join you?

Ken: Of course! Are you free next Sunday? We will meet at school.

Emily: Oh, actually I'll be busy on that day. I'm going to visit my grandmother. I'm sorry.

Ken: That's OK. You can join us next time.

Emily: Thank you. This time, I'll make lunch for my grandmother.

Ken: That's a great idea!

Question 1 What is Ken writing about?

- (a) Speaking English. (b) Living with his grandfather.
(c) Having dinner. (d) Helping old people.

Question 2 When did Ken visit his grandmother?

- (a) Yesterday. (b) Last week. (c) Two weeks ago. (d) Last month.

Question 3 Do many old people live alone in Ken's city?

- (a) Yes, they are. (b) No, they aren't. (c) Yes, they do. (d) No, they don't.

Question 4 What will Ken do to help old people next Sunday?

- (a) He will make lunch. (b) He will visit his grandmother.
(c) He will carry heavy things. (d) He will do his homework.

Question 5 Where will Emily go next Sunday?

- (a) To a restaurant. (b) To her grandmother's house.
(c) To Ken's house. (d) To school.

配点	15点	(各3点)								
正答	Question 1	a (×)	b (×)	c (×)	d (○)	Question 2	a (×)	b (○)	c (×)	d (×)
	Question 3	a (×)	b (×)	c (○)	d (×)	Question 4	a (○)	b (×)	c (×)	d (×)
	Question 5	a (×)	b (○)	c (×)	d (×)					

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確認する問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、Ken が一人暮らしのお年寄りのためにボランティアをしようとしていることについての会話である。問題文の語数は158語であり、昨年度の176語よりやや短くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を1問 (Question 3) と疑問詞を使った疑問文を4問 (Questions 1, 2, 4, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は60.4%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率 (%) >

学科・人数 小問	全 体 3,207	普 通 科 2,816	総合学科 148	商業科系 80	家庭科系 74	英語科系 17	他の学科 72	
Question 1	60.4	43.7	44.9	38.5	30.0	31.1	70.6	31.9
Question 2		70.5	71.2	62.8	68.8	62.2	88.2	63.9
Question 3		62.2	63.1	56.8	56.3	39.2	88.2	59.7
Question 4		51.4	52.8	44.6	48.8	27.0	88.2	30.6
Question 5		74.3	75.3	63.5	77.5	60.8	94.1	65.3

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	68	58	5	5	正答	0
Question 2	38	10	正答	13	15	0
Question 3	43	19	10	正答	14	0
Question 4	58	正答	37	10	11	0
Question 5	31	11	正答	10	10	0

<考察>

Question 1 は、「Ken が何についてのスピーチ原稿を書いているか」を問うものである。調査校全体の正答率は43.7%と本問中最も低かった。誤答68例のうち58例が、(a) Speaking English. であった。Ken の I'm writing my speech in English. という応答から、原稿の内容も英語を話すことについてだと判断したようである。

Question 2 は、「Ken がいつ祖母を訪ねたか」を問うものである。調査校全体の正答率は70.5%と高かった。Ken の I visited my grandmother last week. という発言から容易に正答を判断できたようである。

Question 3 は、「Ken の住む街では一人暮らしのお年寄りが多いか」を問うものである。調査校全体の正答率は62.2%と高かった。Ken の Many old people live alone in our city, so という発言から正答を導きやすかったようである。

Question 4 は、「次週の日曜日、Ken がお年寄りを助けるために何をするつもりか」を問うものである。調査校全体の正答率は51.4%であった。誤答58例のうち37例が、(b) He will visit his grandmother. であった。これは Ken の Are you free next Sunday? という問いかけの直後の I'm going to visit my grandmother. という Emily の発言を Ken の情報と誤って判断したためと思われる。

Question 5 は、「次週の日曜日、Emily がどこへ行くつもりか」を問うものである。調査校全体の正答率は74.3%と本問中最も高かった。Emily の I'm going to visit my grandmother. という発言から、理解しやすかったようである。

<指導上の留意点>

<問題点>

Questions 1, 4 のように、聞き取った内容から必要な情報を整理して正確に理解することができない。

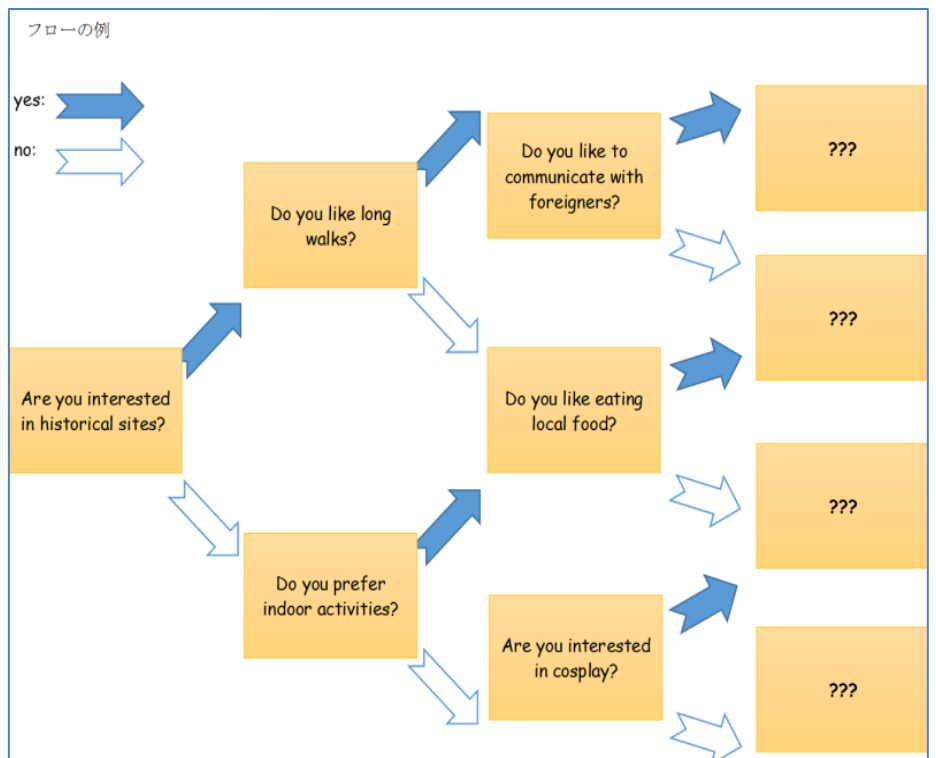
<具体的な指導例>

ペアの対話を聞いた後、別の生徒がその内容を整理してリプロダクションし、さらに両者の意向を踏まえた提案を含んだ会話へと発展させる。

【京都での訪問先を考えさせる】

(1) 生徒 A がフローを見ながら、生徒 B の意向を聞き出す。生徒 B は、yes / no だけでなく、質問の文に近い形で答えるよう指導する。

(2) 生徒 C はフローを見ずに聞き取った対話をリプロダクションし、手持ちのカードから訪問先の候補を提案し、さらに会話を続けさせる。



【例】

A: (フローを見ながら) Are you interested in historical sites?

B: Yes, I am interested in historical sites. I like visiting temples and shrines.

A: Do you like long walks?

B: No, I don't like long walks. I don't want to walk for long actually.

A: Do you like eating local food?

B: Yes, I want to eat local food there.

C: OK. How about going to Nishiki Market? You are interested in historical sites, but you don't want to walk for long, right? Nishiki Market was built about 400 years ago. We can enjoy many kinds of local food there.

B: That sounds great! I want to try a soymilk doughnut!

訪問先候補が書かれたカードの例

<p>Kyoto Manga International Museum (京都国際マンガミュージアム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ about 300,000 collections ✓ can be visited for free ✓ 50,000 yen ✓ 2 minutes from Karasuma 	<p>Sagano Romantic Train (嵯峨野トロッコ列車)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ about 7.3 km trip by train
<p>Fushimi Shrine (伏見稲荷)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ built in 1,499 ✓ famous for more than 1,000 trii gates ✓ takes about 2 h trail up the hill ✓ 2 minutes from Karasuma 	<p>Maiko Makeover (舞子体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ can enjoy local food ✓ was built in 1,615 ✓ 2 minutes from Shijo ✓ 390-meter long arcade